

# 平成30年度 第3回横浜市創造界限形成推進委員会

## 次 第

日時：平成31年3月22日（金）

14時00分～16時30分

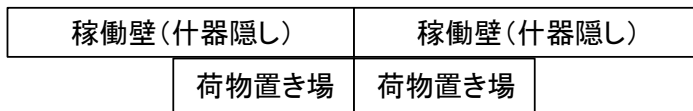
会場：YCC 横浜創造都市センター  
3階スペース

- 1 平成31年度事業計画及び事業評価基準について
- 2 平成31年度文化観光局予算概要について
- 3 創造的イルミネーション事業について
- 4 平成32年度旧第一銀行横浜支店の活用方針について
- 5 象の鼻テラスの運営団体選考のスケジュールについて

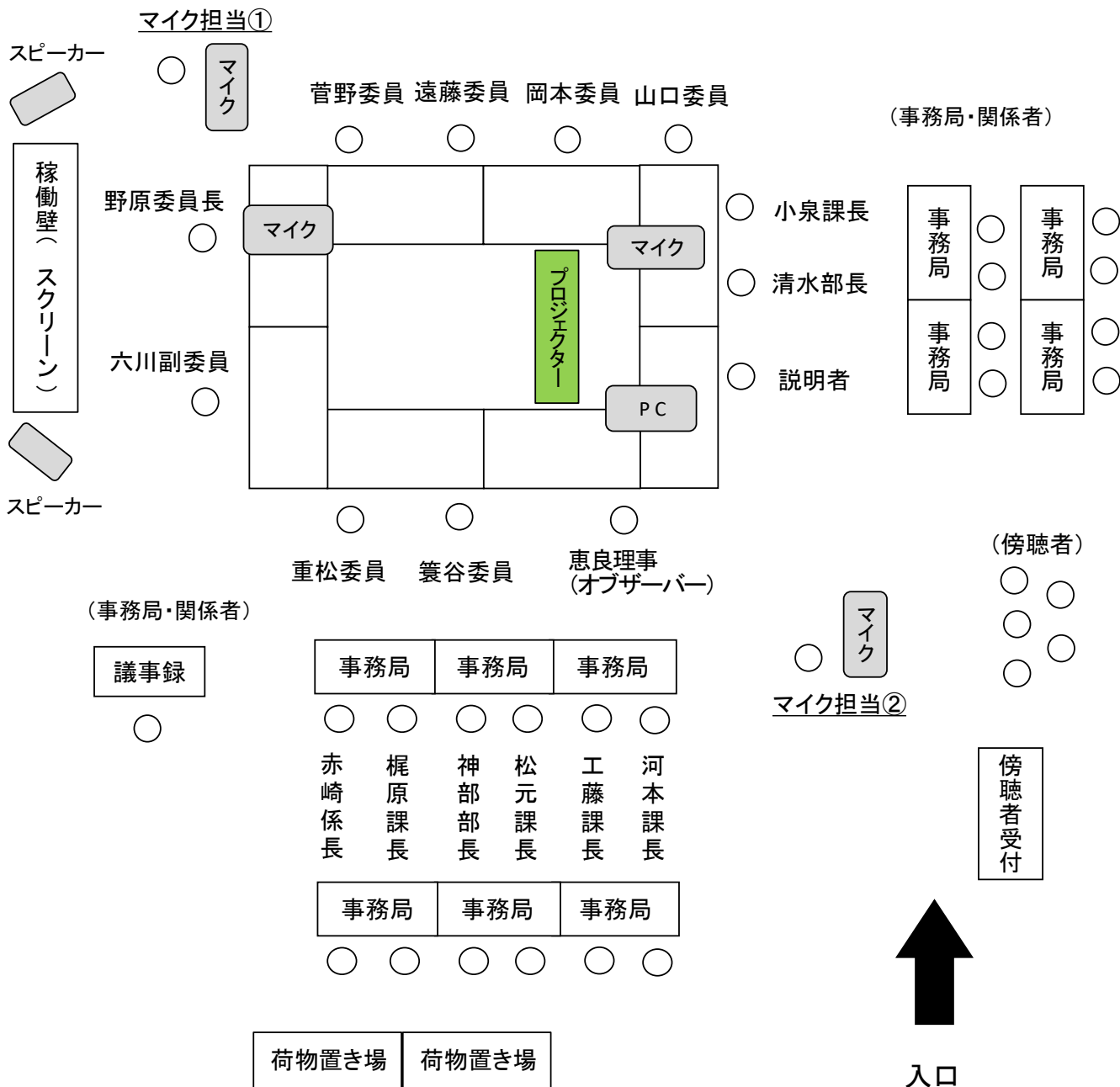
# 【席次表】

## 平成30年度 第3回横浜市創造界限形成推進委員会

日時:平成31年3月22日(金)14時00分～16時30分  
会場:YCC ヨコハマ創造都市センター 3階



<欠席>  
日沼委員



横浜市創造界限形成推進委員会委員名簿(9名)

氏名	所属団体(役職名)		分野
◎野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画
○六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術
菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
山口 真樹子	国際交流基金アジアセンター	舞台芸術コーディネーター	国際交流/舞台芸術

◎…委員長

○…副委員長

横浜市創造界限形成推進委員会 分科会委員名簿

旧第一銀行横浜支店事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元
簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
★若林 朋子	プロジェクトコーディネーター/プランナー		企業支援と芸術

日本郵船横浜海岸通倉庫事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
★恵良 隆二	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	専務理事	まちづくりと経営
★近澤 弘明	(株)近澤レース店	代表取締役	経営と地元

旧関東財務局横浜財務事務所事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

旧老松会館事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 山口 真樹子	国際交流基金アジアセンター	舞台芸術コーディネーター	国際交流/舞台芸術
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術
★恵志 美奈子	世田谷パブリックシアター 劇場部		公立文化施設

象の鼻テラス事業評価分科会

◎ 菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント

初黄・日ノ出町文化芸術振興拠点事業評価分科会

◎ 日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画
★田辺 恵一郎	プラットフォームサービス(株)	取締役会長	まちづくり 施設運営・経営

文化芸術創造発信拠点事業評価及び運営団体選考分科会

◎ 簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり
菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流
★恵良 隆二	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	専務理事	まちづくりと経営
★近澤 弘明	(株)近澤レース店	代表取締役	経営と地元

◎…議長

★事業評価及び運営団体選考分科会に参加する委員以外の有識者

## 平成 31 年度事業計画及び事業評価軸（案）

拠点名 YCC ヨコハマ創造都市センター（旧第一銀行横浜支店）

基本方針	
① 多彩な自主プログラムを実施し、知名度の向上、ブランディング、来館者増加につなげる ② 常設事業間の連携やコワーキング会員間の連携、地域連携など、様々なコラボレーションを促進 ③ 安定的な事業運営と、国内外の優れた芸術の鑑賞機会提供	
平成 29 年度課題	平成 30 年度進捗
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主財源で自主事業を実施する際、収入状況に応じて企画内容等を検討するなど事業実施に戦略を立てると良い</li> <li>・ NPO 法人の会計基準に準じた財務諸表の作成が求められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収入の見込みから確実に実施できる事業計画とし実施</li> <li>・ NPO 法人の会計基準で財務諸表の作成を行った</li> </ul>
平成 31 年度	
主な実施事業	事業評価軸
<p>市天井脱落対策工事等も考慮の上、協定期間満了まで継続的に事業実施</p> <p>① 常設機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気軽に立ち寄り作品鑑賞もできる「カフェオムニバス」</li> <li>・ コワーキングスペース「キャンバス」</li> <li>・ 活動発表等「レンタルスペース」</li> </ul> <p>② 自主プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ YCC Temporary 大型インスタレーション等を実施</li> <li>・ YCC RED ROOM 建物先端の特徴を生かした空間作品及びアートラウンジ</li> <li>・ YCC キッズ・ワークショップ 地域（馬車道商店街等）と連携した子ども向けのアートワークショップ等</li> <li>・ アーティストトーク アーティストと地域との交流促進</li> </ul> <p>③ 広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 印刷媒体のほか、SNS 活用などにより知名度向上に努める</li> </ul>	<p>《運営評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設の活動実績</li> <li>・ 入場者数、利用団体、稼働率</li> <li>・ 広報活動、反響</li> <li>・ どのような体制で運営しているか</li> <li>・ 活動の蓄積を図り今後につなげているか</li> </ul> <p>《経営評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総支出をどのようにまかなっているか</li> <li>・ 経営の自立化のためにどのような努力を行っているか</li> </ul> <p>《創造性評価》《政策達成評価》</p> <p>① 多くの市民が創造都市横浜に触れ、創造都市横浜への理解・共感を高めることに寄与しているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動拠点・ハブ機能：誰もが気軽に集い、新しい可能性に出会える場の創出</li> </ul> <p>② 地域との協働を推進し、まちの活性化に貢献しているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域プログラム：地域との連携を図り、コラボレーションしている</li> </ul> <p>③ 未来に向けた新たなアイデアを発信し、市民のクリエイティビティを高めているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民プログラム：人々のクリエイティビティを誘発する</li> </ul>

平成 31 年度事業計画及び事業評価軸（案）  
 拠点名 THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）

基本方針	
① 関内・関外地区における創造産業の集積をさらに推進し、これを横浜経済の活性化につなげる ② 旧関東財務局の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る	
平成 29 年度課題	平成 30 年度進捗
<ul style="list-style-type: none"> <li>CREATIVE SPORTS LAB や ACTIVE STYLE CLUB の活動と連携した中庭やオープンカフェの活用による施設への入りづらさ等の解消</li> <li>会員の利用を増やす工夫や会員と来館者の交流機会の創出等による 2 階コワーキングスペースの実質的な利用率の向上</li> <li>ビジネスマッチングやオープンイノベーションなど、CSL の実質的な活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 階でのクラフトビールの未来を考えるトークセッションと中庭でのビアパーティーを組合せた「THE BAYS CRAFTBEERDAY」を開催</li> <li>CSL の会員掲示板の作成や仕事共有ワークショップ、オープンランチ会の開催</li> <li>CSL 会員との +B 商品開発を実現</li> <li>BAYSTARS Sports Accelerator の採択企業と地域通貨導入の可能性を探る実証実験を実施</li> <li>公園プロダクト開発会議の開催</li> </ul>
平成 31 年度	
主な実施事業	事業評価軸
<p>《事業方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>更なる強固な顧客基盤の創出</li> <li>THE BAYS 全体の連携強化</li> </ul> <p>《主な実施事業》</p> <p>① THE BAYS 全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>THE BAYS パスポート（仮）の発行（CSL、ASC、+B、&amp; 9 すべて共通で使用可能）</li> <li>野球イベントと連携した館全体でのイベントの実施</li> </ul> <p>② CREATIVE SPORTS LAB（CSL）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実証実験を通じたビジネスマッチング                         <ul style="list-style-type: none"> <li>BAYSTARS Sports Accelerator 第 2 期・第 3 期の実施及び事業化の検討</li> <li>CSL 会員向けイノベーション会議の実施</li> </ul> </li> <li>参加型オープンイノベーション                         <ul style="list-style-type: none"> <li>CSL 会員、横浜のクリエイター、市民と +B の連携による商品開発プロジェクトの実施（日本大通り等での発表会開催）</li> </ul> </li> </ol> <p>③ ACTIVE STYLE CLUB（ASC）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>フィットネスプログラム                         <ul style="list-style-type: none"> <li>公共空間活用プログラム（パークヨガ他）</li> <li>CSL、&amp; 9 と連携したイベントの開催</li> </ul> </li> <li>キッズ向けプログラム                         <ul style="list-style-type: none"> <li>キッズチアプログラム</li> <li>キッズスポーツプログラム</li> </ul> </li> </ol> <p>④ カフェ・ショップ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>カフェ（&amp; 9）                         <ul style="list-style-type: none"> <li>CSL、ASC イベントとの連携（飲食提供）</li> </ul> </li> <li>ショップ（+B）                         <ul style="list-style-type: none"> <li>CSL 会員、横浜のクリエイター、市民との商品開発プロジェクトの実施（再掲）</li> </ul> </li> </ol>	<p>《運営評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の運営状況                         <ul style="list-style-type: none"> <li>賃料の遅滞ない支払い</li> <li>文化財である建物の歴史を生かした活用</li> <li>コミュニティスペースのクリエイター・企業等の交流の場としての利用</li> <li>3 階会議スペースのラボ会員等による利用</li> <li>事業計画を基本に事業目的に適った運営</li> <li>運営団体と横浜市との連携・協働</li> </ul> </li> <li>広報活動                         <ul style="list-style-type: none"> <li>施設・各事業の効果的な広報活動・情報発信</li> <li>創造都市横浜の PR につながる工夫</li> </ul> </li> <li>施設の維持管理                         <ul style="list-style-type: none"> <li>法令遵守による施設の維持管理</li> <li>施設の変更や修繕に対する報告</li> <li>利用方法の変更に対する事前報告・相談</li> <li>しっかりとした体制による安全対策・管理</li> </ul> </li> </ul> <p>《創造性評価》 《政策達成評価》</p> <p>① 関内外地区における創造産業の集積をさらに推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ×クリエイティブというコンセプトを体現する活動、事業の総合的実践できたか</li> <li>新たなイノベーション・創造産業の創出・集積に向けた活動が進んでいるか</li> <li>創造境界のクリエイター、企業、大学、市民、行政との交流・連携が促進されているか</li> </ul> <p>② 本施設の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本大通り地区の賑わい創出に貢献し、事業に参加・協力しているか</li> <li>スポーツ×クリエイティブという視点から、創造境界の形成や関内外の活性化にも活動を広げているか</li> </ul>

平成 31 年度事業計画及び事業評価軸（案）  
 拠点名 急な坂スタジオ（旧老松会館）

基本方針	
① 【横浜発】を、広く国内外に輩出する【創造・創作活動のためのプラットフォーム】 ② 次代を担う若いアーティストたちにとって【使いたいと思う稽古場】 ③ すべての利用者にとって【快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営】 ④ 市民や将来の観客にとって、舞台芸術を身近に感じるきっかけとなる【体験型プログラム】 ⑤ 安定した稼働率・利用料収入の維持によるバランスの良い経営	
平成 29 年度課題	平成 30 年度進捗
<ul style="list-style-type: none"> <li>・28 年度に利用料の未収が発生したことを踏まえ、利用料の一部を前納してもらうなど、今後、未収を防ぐ改善策を考えなければならない</li> <li>・今後の「急な坂スタジオをより地域に開く」取組の一つとして、アーティストが常駐しているという急な坂スタジオの特性を活かし、ものづくりを通して地域へアプローチするような企画を期待する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務手続きに係るダブルチェックの徹底</li> <li>・新規サポートアーティストの公募</li> <li>・「急な坂食堂」のオープン（平成 30 年 4 月 10 日）</li> <li>・「相談室 Plus」の実施</li> <li>・「急な坂 ワークショップ」の開催</li> <li>・F/T との連携事業</li> <li>・「Steep Slope Showcase vol.2」の開催</li> </ul>
平成 31 年度	
主な実施事業	事業評価軸
① スタジオ等運営業務  ② カフェ事業（急な坂食堂） <ul style="list-style-type: none"> <li>・「食」でのアーティストへのサポート</li> <li>・急な坂食堂を会場とした、トークイベント「おしゃべりな食堂」、ワークショップイベントの開催により、稽古以外での利用者の増、市民の認知率アップを目指す</li> </ul> ③ サポートアーティスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティストの安定した創作環境のため、恒常的な制作業務・マネジメントや、稽古場の優先使用などの支援を実施</li> <li>・30 年度に一部サポートアーティストの入れ替えを行ったため、31 年度は新たなサポートアーティストも含め、様々な事業を展開</li> </ul> ④ アーティスト支援・育成プログラム <ul style="list-style-type: none"> <li>若手アーティストの公演・発表や作品制作を支援するサポート企画を実施</li> <li>・相談室 plus</li> <li>・綾門優季の連載企画「余計なお世話です」</li> <li>・俳優たちによる稽古会</li> </ul> ⑤ 体験型プログラム <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典芸能を用いた子供向けワークショップを実施</li> <li>・食堂の活用や、様々な形で舞台芸術に触れることができるショーケース公演の定着化を通し、稽古以外の来訪者を開拓</li> </ul>	≪運営評価≫ ≪経営評価≫ <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設における活動実績</li> <li>・広報・情報発信</li> <li>・施設の維持管理状況</li> <li>・運営体制・労務管理</li> <li>・年間総事業費について（収入・支出）</li> </ul> ≪創造性評価≫ ≪政策達成評価≫                     ① 【横浜発】を、広く国内外に輩出する【創造・創作活動のためのプラットフォーム】 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「横浜発」を意識した、発信力のある創造的活動を展開しているか</li> </ul> ② 次代を担う若いアーティストたちにとって【使いたいと思う稽古場】 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 新たな可能性を持つ人材を発掘、育成しているか</li> </ul> ③ すべての利用者にとって【快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営】 <ul style="list-style-type: none"> <li>- すべての利用者にとって快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営を行っているか</li> </ul> ④ 市民や将来の観客にとって、舞台芸術を身近に感じるきっかけとなる【体験型プログラム】 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 子供たちの創造性を育む創造的プログラムを展開しているか</li> <li>- 地域・市民に開かれた場所とするための取組を行っているか</li> </ul>

平成 31 年度事業計画及び事業評価軸（案）

拠点名 象の鼻テラス

基本方針	
① 創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する ② 象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す	
平成 29 年度課題	平成 30 年度進捗
<ul style="list-style-type: none"> <li>来場者の要望把握のためアンケート実施</li> <li>ポートジャーニー・プロジェクトの他事業との連携、市内及び国内ネットワークの構築</li> <li>市民が創造的活動に参加・体験できる仕掛けづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に要望を聞く機会としてアンケートを開始</li> <li>ポートジャーニー・プロジェクトからスマートイルミネーションなどとの連携が図れている</li> <li>フューチャースケーププロジェクトやマルシェなど市民参加型の活動が生まれている</li> </ul>
平成 31 年度	
主な実施事業	事業評価軸
① 自主企画事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>ZOU-NO-HANA FUTUREScape PROJECT : 象の鼻テラスやパークを居心地の良い空間にするために、クリエイティブなアイデアを実現する 10 周年記念プロジェクト</li> <li>PORT JOURNEYS : アーティストの相互派遣・サミットの実施など、世界の創造都市との交流を図るプロジェクト</li> <li>ゾウノハナ・バレエ・プロジェクト : 市民による横浜発の地元バレエ団の立ち上げを目指し、横浜出身のダンサー安藤洋子によるワークショップ・発表会を実施</li> <li>ZOU-SUN-MARCHE : 毎週日曜日に地元飲食店やアーティストと連携した体験型のマルシェを多様なテーマで実施</li> <li>EIB(エレファント・トラベル・ビューロー) : 市民ボランティアの力などを活用し、新しい横浜アートツーリズムの発信と体験の場づくりを進める</li> <li>Atelier ZOU-NO-HANA : 子どもたちの創造性を育むプログラムの実施</li> <li>SNACK ZOU-NO-HANA : 象の鼻テラスの営業時間外に、人々が交流できる場としての催事を展開（音楽、映画、講義など）</li> </ul> ② 協力事業／実行委員会事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>スマートイルミネーション横浜</li> <li>スローレーベル/ヨコハマ・パトリエンナーレ</li> </ul> ③ 便益施設（カフェ）広報 <ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮したプラスチックゼロの取組</li> <li>食にまつわるイベントの開催</li> <li>バイリンガル化の推進</li> </ul>	<<運営評価>> <ul style="list-style-type: none"> <li>無料休憩スペース/観光インフォメーション運営                             <ul style="list-style-type: none"> <li>-無料休憩スペースを年中無休で運営</li> <li>-観光インフォメーション実施</li> <li>-日常的にアート・映像作品を展示</li> <li>-利用者の利便性向上への取組</li> <li>-誰でも入りやすい空間づくり</li> <li>-営業時間の工夫（休祝前日の時間延長）</li> </ul> </li> <li>運営体制                             <ul style="list-style-type: none"> <li>-スタッフの配置状況、勤務体制、緊急時の体制</li> <li>-スタッフのスキルアップ、モチベーションアップの取組</li> </ul> </li> <li>施設の維持管理                             <ul style="list-style-type: none"> <li>-施設の維持管理、安全対策、安全管理体制</li> </ul> </li> </ul> <<創造性評価>> <<政策達成評価>>                     ① 創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する                     【文化芸術事業】 <ul style="list-style-type: none"> <li>質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する事業、まちづくり、賑わいづくりに資する事業、市民に身近な事業（テラスの立地や開港の地という歴史性を意識した企画など）</li> </ul> 【協力事業/実行委員会事業】 <ul style="list-style-type: none"> <li>市主催事業、創造界隈拠点と連携した事業等への開催場所提供</li> </ul> 【カフェ運営】 <ul style="list-style-type: none"> <li>カフェからの積極的な文化発信</li> </ul> ② 広報活動により施設及び事業の効果的な周知を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>施設及び事業等の広報活動、情報発信</li> <li>海外を意識した情報発信（バイリンガル対応）</li> </ul>



平成 31 年度事業計画及び事業評価軸（案）  
 拠点名 初黄・日ノ出町文化芸術拠点施設

基本方針	
① 文化芸術の力で新しい価値観を生み出し、地区の活性化を図る ② NPO法人を中心に、地域、企業、行政、警察、ボランティア等を巻き込んだ新しいスタイルの事業運営 ③ 産業振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開 ④ 大学、教育機関等との連携により、まちの活性化、地域再生のモデル地区として全国に発信	
平成 29 年度課題	平成 30 年度進捗
<ul style="list-style-type: none"> <li>レジデンスアーティストの育成を考えた出口戦略を持つことが望まれる</li> <li>川などを活用した事業の継続・展開が期待される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジデンスアーティストの販売機会創出</li> <li>黄金町バザール 2018 において大岡川の護岸や橋を活用した作品展示を実施</li> </ul>
平成 31 年度	
主な実施事業	事業評価軸
① アーティスト・イン・レジデンス <ul style="list-style-type: none"> <li>長期に加え、短期レジデンス（3 か月未満）の随時募集実施</li> <li>リサーチャー向けプログラム整備</li> <li>レジデンスから卒業までの全体プログラム整備</li> <li>卒業者向け物件紹介・支援</li> </ul> ② 施設活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>レンタルスペースのPR強化</li> <li>長期アーティストの個展、ライブラリーイベントの実施</li> </ul> ③ 国際交流 <ul style="list-style-type: none"> <li>海外アートスペースとの交換プログラム、交流強化</li> <li>黄金町アーティスト作品の海外展示・販売</li> </ul> ④ 黄金町バザール <ul style="list-style-type: none"> <li>周辺施設、文化施設との連携</li> <li>市の水辺の魅力づくり事業との連携</li> <li>作品販売機会の創出</li> </ul> ⑤ made in Koganecho <ul style="list-style-type: none"> <li>レジデンスアーティストの作品・イベントを「黄金町産」としてブランディング、プロモーション強化</li> </ul> ⑥ 地域連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>のきさきアートフェアの地域団体との連携強化</li> <li>京浜急行、高架下事業者と連携したにぎわい形成の検討</li> </ul>	≪運営評価≫ ≪経営評価≫ <ul style="list-style-type: none"> <li>全体事業収支</li> <li>事業収入</li> <li>施設の維持管理状況</li> </ul> ≪創造性評価≫ ≪政策達成評価≫                     ① 文化芸術の力で新しい価値観を生み出す <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい価値観を生み出す事業</li> </ul> ② 地域、企業、大学、警察、行政、ボランティア等と連携した事業運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域、大学、警察、行政との連携</li> <li>京浜急行との連携</li> <li>ボランティア等との連携</li> </ul> ③ 産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの取り組み</li> </ul> ④ 地域再生のモデル地区として全国に発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>広報・情報発信</li> </ul>

平成 31 年度事業計画及び事業評価軸（案）  
 拠点名 文化芸術創造発信拠点（BankART1929）

基本方針	
① 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと ② 他都市及び国際的なネットワークの構築 ③ さらなる BankART の経済的な基盤の確立 ④ 創造界限クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり	
平成 29 年度課題	平成 30 年度進捗
—	平成 30 年 12 月 7 日 基本協定書締結 平成 31 年 2 月 1 日 BankART SILK オープン 2 月 8 日 BankART Station オープン 【初期整備・実施事業】 ・BankART Station、BankART SILK の初期整備 ・BankART スクールの実施 ・高橋啓祐展「映像と身体」（BankART SILK） ・「雨ニモマケズ」展（BankART Station） ※共催：Creative Network 事業
平成 31 年度	
主な実施事業	事業評価軸
（凡例） St.：BankART Station SILK：BankART SILK Home：BankART Home R16：R16 スタジオ  ① 主催事業 ・企画展（St.、SILK） ・続・朝鮮通信使  ② コーディネート事業（St.、SILK、R16） ・TPAM、卒展など  ③ スタジオ事業 ・20 組ほどのアーティスト・クリエイターにスタジオを提供し、オープンスタジオも実施する短期 AIR プログラム「AIR2019」（St.） ・10 組ほどのアーティスト・クリエイターにスタジオを提供し、オープンスタジオも実施する R16 スタジオ（R16） ・海外から長期滞在作家を招くプログラム ・台北市・横浜市アーティスト交流事業 ・韓国の団体（協定締結）との交流プログラム  ④ スクール事業（St.、Home ほか） ・講師候補 今福竜太、藤枝守、木下直之、福住簾、村田真、中村恩恵、他写真家など  ⑤ 出版／ショップ事業 ・Under35 6 種ほか、展覧会関連、スクール関連、企画出版関連のカタログの発行	≪運営評価≫ ≪経営評価≫ ・全体事業収支  ・事業収入 -収入のうち、横浜市の補助金が占める比率 -横浜市の補助金以外の収入（助成金、協賛金、貸館収入等）の内訳と比率  ・施設の整備・維持管理状況 -施設の整備状況 -施設の管理状況 -施設の修繕・改善状況 -安全対策 -その他  ≪創造性評価≫ ≪政策達成評価≫ ① 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと -アーティスト・クリエイターの育成支援や横浜への定住・定着を促すことを主な目的とした短期滞在型アーティスト・イン・レジデンス事業 -横浜で活動するアーティスト・クリエイターや企業・事業者・市民等と連携した街の活性化に寄与する事業 -本事業の成果発信及び最先端の文化芸術に市民が触れる機会の提供等を目的とした様々なプログラム -次年度以降の事業を見据えた取組、広報・情報発信  ② 他都市及び国際的なネットワークの構築  ③ 創造界限クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり



平成31年度

# 予算概要

文化観光局

あうたびに、あたらしい

Find Your YOKOHAMA

# 目 次

	ページ
I 平成31年度 文化観光局予算案について	1
○予算額の概要	
○予算編成の考え方	
◆トピックス① 「中期4か年計画」文化観光局施策の指標◆	2
・2020年以降飛躍するための31年度の集中的取組	
II 平成31年度 文化観光局 主要事業	4
1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化	4
(1) シティプロモーション事業	
(2) 調査分析事業	
2 市民の文化芸術活動の支援と環境整備	5
(1) 芸術文化支援事業	
(2) 文化施設運営事業	
(3) 文化施設整備事業	
(4) 横浜美術館大規模改修事業	
(5) 横浜みなとみらいホール大規模改修事業	
3 横浜のプレゼンスを向上させる文化芸術創造都市の実現	7
(1) 横浜芸術アクション事業	
(2) 映像文化都市づくり推進事業	
(3) 創造界限形成事業	
4 国内外からの誘客促進と受入環境整備の推進	10
(1) ラグビーワールドカップ2019 <sup>TM</sup> を契機とする海外誘客プロモーション事業	
(2) 海外誘客事業	
(3) 国内誘客事業	
(4) 三溪園施設整備等支援事業	
(5) 観光施設維持管理事業 (マリンタワー改修)	
5 グローバルMICE都市としての競争力強化	12
(1) MICE誘致・開催支援事業	
(2) 20街区MICE施設整備事業	
◆トピックス② 国際的なMICE拠点都市・横浜◆	13
◆トピックス③ 「社会包摂」と「次世代育成」推進に向けた取組◆	14
III 平成31年度 文化観光局予算案総括表	16
IV 予算科目別内訳	17
1 文化観光総務費	17
2 文化芸術創造都市推進費	18
3 文化プログラム推進費	22
4 観光MICE振興費	23

# I 平成31年度 文化観光局予算案について

## 予算額の概要

31年度の文化観光局の一般会計予算額は、103億5,111万円、対前年度1億6,294万円の減、1.5%の減となっています。

主な減額理由は、関内ホール改修事業の終了によるものです。

区 分	31年度予算額	30年度予算額	増 減
一般会計	103億5,111万円	105億1,405万円	▲1億6,294万円 (▲1.5%)

(内訳は 16ページの文化観光局予算案総括表を御覧ください。)

## 予算編成の考え方

### 1. 2020年以降の飛躍に向けた集中的取組の年

2019(平成31)年度は、第7回アフリカ開発会議、ラグビーワールドカップ2019™の開催年であり、東京2020オリンピック・パラリンピックがよいよ翌年に迫るなど、今後の横浜を発展させるための大きなチャンスが到来します。この世界からの注目が集まる2019年、2020年を、国内外からの交流人口の拡大に向けた観光・MICE振興と文化芸術創造都市の確立に向けた「集中的取組の年」と位置づけ、これまでの実績を礎としながら、各取組を一層充実・加速させます。(p.3参照)。

観光・MICE施策においては、国内外からの来訪を促すための個人及び法人向けセールス・プロモーションの強化や観光客の受入環境の充実、和の観光資源である「三溪園」の環境整備に取り組むとともに、32年春の開業に向け、「パシフィコ横浜ノース」の整備及び開業準備を着実に進めます。

文化芸術創造都市施策では、「横浜音祭り2019」の開催や「創造的イルミネーション」の実施など、昼も夜も楽しめるコンテンツを充実させます。

また、市民の文化活動の環境整備として、区民文化センター整備(瀬谷区、港北区、都筑区)を進めるほか、子どもたちの感性や創造性を育むための次世代育成に引き続き取り組みます。

これらの施策を連携させ、相乗効果を生み出すよう、局一丸となって推進していきます。

## 2. 「選ばれる都市 横浜」の実現に向けて

基盤となる5つの柱に基づき計画的・効果的に各施策を進めるとともに、31年度は、「2020年以降の飛躍に向けた、集中的取組」を実現するため、市民の皆様をはじめ、地域、事業者、団体、NPOなど様々な皆様と連携し、各取組を展開します。

また、「社会包摂」と「次世代育成」を、分野を超えた局の共通理念として、各施策に反映させます。これにより、市民の皆様にとって誇れるまち、国内・海外から「選ばれる都市 横浜」の実現を目指します。

### ○基盤となる5つの柱

- 1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化
- 2 市民の文化芸術活動の支援と環境整備
- 3 横浜のプレゼンスを向上させる文化芸術創造都市の実現
- 4 国内外からの誘客推進と受入環境整備の推進
- 5 グローバルMICE都市としての競争力強化

共通理念 「社会包摂」と「次世代育成」の推進  
～クリエイティブ・インクルージョン／クリエイティブ・チルドレン～

### ◆トピックス① 「中期4か年計画」文化観光局施策の指標◆

「横浜市中期4か年計画2018～2021」では、都市間競争が激化する中で、人や企業から選ばれる都市となるよう、文化芸術創造都市や観光・MICEの振興、街の魅力や賑わいづくりにつながる観光誘客の促進を図っています。各指標の目標値と取組状況は次のとおりです。

指 標	直近の現状値	目標値(33年度末)
<b>政策5 文化芸術創造都市による魅力・賑わいの創出</b>		
文化芸術創造都市施策の浸透度※1	3.85 (29年度)	4.00
<b>政策6 観光・MICEの推進</b>		
観光消費額	3,557億円(29年)	3,821億円(33年)
外国人延べ宿泊者数	73万人(29年)	93万人(33年)
国際会議総参加者数(JNTO※2基準)	25万人(29年)	35万人(33年)

※1 文化芸術創造都市施策の浸透度を測る指標として、横浜に対し市民が持つイメージを数値化したもの(最高値6P～最低値0P)  
※2 JNTO:Japan National Tourism Organization(日本政府観光局)

～2020年以降飛躍するための31年度の集中的取組～

クルーズ船  
の寄港

ラグビーワールド  
カップ2019™

羽田空港の  
発着便増加

交流人口拡大のチャンス

街のにぎわい創出、観光施策における市内事業者及び（公財）横浜観光  
コンベンション・ビューローとの連携強化による市内消費への波及

4つの集中的取組

1. 昼も夜も滞在を楽しめる新たな魅力づくり

<主な取組>

- ・横浜らしい特色のある芸術フェスティバル「横浜音祭り2019」の開催【拡充】(p.7)
- ・ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックへのムーブメントに繋がる文化芸術イベントの開催【新規】(p.5)
- ・横浜ならではの創造的イルミネーション【新規】(p.9)
- ・年間を通じた横浜美術館の開館延長（週末）【新規】(p.5)

2. 訪日外国人旅行者の獲得に向けた取組

<主な取組>

- ・オンライントラベルエージェント（※）の活用による個人旅行者向けプロモーションの実施【拡充】(p.10)  
※インターネット上で旅行商品を取引する旅行会社
- ・クルーズ船会社や旅行会社、海外メディアの招請などの法人向けのセールス【拡充】(p.10)
- ・航空機内や空港等来日者へのプロモーションの実施【新規】(p.4)
- ・広域連携による訪日外国人旅行者向けの市内宿泊促進事業【新規】(p.10)

3. 和の観光資源「三溪園」等の環境整備

<主な取組>

- ・三溪園の大規模改修や多言語対応、食・お土産品・和の体験プログラムの提供等【拡充】(p.11)
- ・横浜能楽堂における訪日外国人旅行者をターゲットとした和体験プログラムの提供【新規】(p.5)



【三溪園】

4. 滞在環境の向上、近隣都市連携による周遊観光の促進

<主な取組>

- ・ラグビーワールドカップ2019™開催期間中の新横浜国際競技場と観光地エリアのシャトルバスの運行【新規】(p.24)
- ・民間事業者と連携したナイトタイムエコノミーなどの充実【新規】(p.24)
- ・広域連携（鎌倉、横須賀等）による観光ルートの造成、商品開発【新規】(p.11)

## Ⅱ 平成31年度 文化観光局 主要事業

### 1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化

ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックという機会を捉え、横浜の認知やブランド力の向上、集客・賑わいづくりにつなげていくため、基礎情報の収集・分析を踏まえ、文化芸術創造都市、観光・MICEを中心に横浜の魅力を総合的に発信するシティプロモーションを戦略的・効果的に展開します。

#### (1) シティプロモーション事業

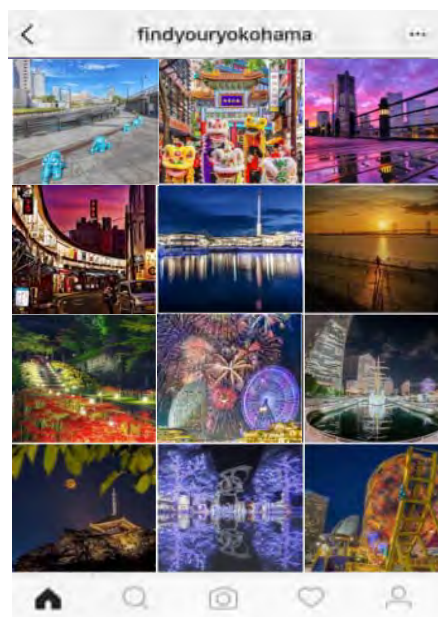
拡充

1億2,125万円（前年度：8,582万円） p.17

横浜の魅力を表すスローガンとして、「あうたびに、あたらしい Find Your YOKOHAMA」を掲げ、重点的にプロモーションすべきイベント・施設を選定したうえで、ターゲットに適した広報媒体を選択しながら、年間を通じた効果的なシティプロモーションを展開します。

31年度は、ラグビーワールドカップ2019™の機会を捉え、英国やオーストラリア等を中心に、海外へのテレビやSNSでの訴求をより強化するとともに、空港やエアライン機内ビジョンにおいて、来日した外国人旅行者へのプロモーションを展開し、都市の魅力の認知やブランド力の向上につなげます。

また、民間企業等と協力し、「大岡川の水辺の新たな魅力づくり」やポケモンをはじめとするコンテンツとのタイアップなど、横浜のブランド力向上につながる魅力を共創し、プロモーションを進めていきます。



【公式Instagramアカウント@findyouryokohama】

#### (2) 調査分析事業

1,026万円（前年度：1,208万円） p.17

市内で実施されるイベントや、横浜を代表する文化・観光施設に関する認知度、訪問意欲等の把握や、横浜の文化芸術の意識・活動に関する調査を実施し、施策立案の基礎資料として活用するとともに、プロモーションの戦略的・効果的な実施、賑わい形成や経済活性化につなげます。



## 2

## 市民の文化芸術活動の支援と環境整備

文化的に豊かな市民生活の実現に向け、市民の皆様やNPO等が主体となっていく文化芸術活動を支援し、様々な文化芸術活動を鑑賞、創作、体験、発表できる機会の充実を図り、市内全域で市民の皆様が活動しやすい環境づくりを進めます。

また、文化芸術活動の拠点施設を整備・運営し、文化芸術を身近に親しむ機会の提供や様々な情報・魅力を発信します。

## (1) 芸術文化支援事業

拡充

2億3,160万円（前年度：3,040万円） p. 20

ラグビーワールドカップ 2019<sup>TM</sup>、東京 2020オリンピック・パラリンピックの開催により、世界から注目が集まるこの2年を好機ととらえ、両大会への市内の機運の醸成に繋がる文化芸術活動を活性化します。横浜美術館とその周辺の公共空間で文化芸術創造都市・横浜を象徴する文化芸術企画（シンボルプログラム）を実施する一方、2020年以降の市民社会を見据えた“先進的・実験的”な取組を、都心部や郊外部にある文化施設等と連携して行います（リーディングプログラム）。横浜美術館では年間を通じて、週末に開館時間を延長します。

さらに、市民の皆様が様々な文化芸術を鑑賞、体験、発表できる機会の充実を目指し、市に拠点のある文化芸術団体が行う活動を支援します。

## シンボルプログラム

市内外の来街者が、文化施設とまちを一緒に楽しむ機会を創出。

横浜美術館の夜間開館に合わせ、夕方から夜にかけてグランモール公園等で文化芸術企画を実施。

## リーディングプログラム

高齢化が進む地域で、誰もが身近に文化芸術を鑑賞、または活動に参加できる機会を創出。

福祉施設へのアウトリーチプログラムなどを実施。

## (2) 文化施設運営事業

拡充

31億4,084万円（前年度：29億1,469万円） p. 20

横浜美術館、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂、関内ホール等計 15 の文化施設の運営を通じて、国内外から注目されるような質の高い展覧会、公演等を実施し、横浜の魅力を発信するとともに、市民の皆様が文化芸術に親しむ機会を提供します。

横浜能楽堂では、訪日外国人旅行者をターゲットとした和体験プログラムを実施します。

また、市民の皆様が施設を安全・安心に利用できるよう、設備機器等の更新を実施します。

ホールの天井の耐震化に向けて、鶴見区民文化センター及び栄区民文化センターでは工事を実施するとともに、緑区民文化センターで基本設計を行います。



【横浜能楽堂 本舞台】



【栄区民文化センター ホール】

### (3) 文化施設整備事業

1億5,190万円（前年度：7億5,720万円） p.21

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、個性豊かな文化芸術活動を活発に行うことができる環境整備のため、地域特性等に応じて文化施設（区民文化センター）を整備します。

瀬谷区では保留床の購入費の一部支払い、港北区では不動産鑑定を実施します。都筑区では設計協議等を進めます。

- ・瀬谷区：保留床購入費 1億4,800万円  
(瀬谷駅南口第1地区第一種市街地再開発事業の中での整備)
- ・港北区：不動産鑑定 150万円  
(新綱島駅前地区第一種市街地再開発事業の中での整備)
- ・都筑区：設計アドバイザー 240万円  
(都筑区における区民文化センター等整備予定地活用事業の中での整備)

### (4) 横浜美術館大規模改修事業

拡充

3億675万円（前年度：7,000万円） p.20

横浜美術館は、昭和63年にしゅん工してから30年が経過し、美術作品を展示、保存する上で重要である空調設備をはじめ、電気や衛生設備等の設備機器が老朽化しているため、長寿命化を図ります。

また、高齢者、障害者等のためのバリアフリー対応や、収蔵庫の拡張等を行います。

31年度は改修工事に向けて、実施設計及び収蔵美術作品等の移転のための事前調査等を行います。



【横浜美術館】

### (5) 横浜みなとみらいホール大規模改修事業

拡充

9,857万円（前年度：5,000万円） p.20

利用者の安全を確保するため、大ホールや小ホール、大ホールホワイエの天井の耐震化に向けた工事を実施します。併せて、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図るとともに、バリアフリー対応の改修を行います。

31年度は改修工事に向けて、実施設計を行います。



【横浜みなとみらいホール 大ホール】

横浜らしい特色ある芸術フェスティバルの継続的な開催や、文化芸術を通じた国際交流の展開により、横浜のプレゼンスを向上させ、交流人口の増加等につなげます。

また、歴史的建造物や公共空間などを創造活動の場として活用するとともに、アーティスト・クリエイターなど創造的な人材の一層の集積と企業・地域との協働を推進し、創造性を生かしたまちづくりを進めます。

### (1) 横浜芸術アクション事業

3億9,120万円（前年度：4億5,432万円）

p. 22

市民参加・次世代育成・賑わいづくりを柱として横浜らしい音楽フェスティバル「横浜音祭り2019」を開催します。ラグビーワールドカップ2019™開催を意識した事業展開を図ります。

#### 【横浜音祭り2019 概要】

開催期間：31年9月15日～11月15日（コア期間62日間）

会場：横浜市内全域（横浜の「街」そのものが舞台）

ジャンル：クラシック、ジャズ、ポップス、日本伝統音楽などオールジャンル

#### ◇市民参加及び横浜の街を舞台とした事業

##### 【主な事業】

##### ・街に広がる音プロジェクト

実施日：31年9月～11月

場所：市内各地の商業施設や公園等

内容：フェスティバル期間中の週末を中心に、来街者で賑わう街中のオープンスペースで、市民参加によるストリートライブを実施します。ラグビーワールドカップ2019™の開催に合わせ、訪日外国人など誰もが楽しめる音楽・ダンス・アートを組み合わせた取組や、第7回アフリカ開発会議開催にちなみ、アフリカ文化を身近に感じられる取組も実施します。



【横浜音祭り2016 「街に広がる音プロジェクト」 撮影：大野隆介】

## ・18区連携事業

実施日：31年5月～11月

場 所：市内各所

内 容：各区の文化施設が実施する事業  
や区民まつりとも連携し、全区  
で音楽事業を実施します。



【横浜音祭り2016  
ほどがや区民まつり スペシャルコンサート】

## ◇トップアーティスト事業

### 【主な事業】

#### ・オープニングコンサート

実施日：31年9月15日

場 所：横浜みなとみらいホール

内 容：世界的に著名な指揮者による、  
市民合唱団も参加する横浜らしい  
公演を実施します。



【横浜音祭り2016  
「パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマー  
フィルハーモニー管弦楽団、榎本大進（ヴァイ  
オリン）」撮影：藤本史昭】

#### ・クロージングコンサート

実施日：31年11月15日

場 所：横浜みなとみらいホール

内 容：日本を代表するヴァイオリニスト  
とオーケストラによる話題性の高  
い公演を実施します。

#### ・英国（スコットランド）交流事業

実施日：31年9月～10月

場 所：横浜赤レンガ倉庫1号館等

内 容：ラグビーワールドカップ2019™を契機とした横浜と英国（スコットランド）  
との交流促進に向け、英国に縁のある楽団や、毎年世界的な芸術祭が開催さ  
れるスコットランドで活躍するアーティストによる公演を実施します。

## ◇子どもたちの豊かな創造性を育むための次世代育成事業

### 【主な事業】

#### ・消防音楽隊による中学校吹奏楽部ワークショップ

実施日：31年6月～11月

場 所：市内中学校

内 容：消防音楽隊が市内中学校に出向いて  
ワークショップを実施します。



【横浜音祭り2016  
「横浜市消防音楽隊による中学校吹奏楽部ワ  
ークショップ&演奏会】

## (2) 映像文化都市づくり推進事業

3億2,650万円（前年度：5億2,863万円） p. 19

### ◇創造的イルミネーション事業 新規

ラグビーワールドカップ 2019™開催に合わせ、国内外の観光客を増やし、横浜のナイトタイムエコノミー活性化の契機とするため、横浜らしさを感じる港やウォーターフロントを活用して、来場者参加型の美しいイルミネーションを展開します。

あわせて、会場周辺のビルや公共空間についても、先端技術を駆使し、来場者の動きにより光や映像の変化を体感できる、横浜ならではの創造的な演出を行うことで、世界から選ばれる夜間の観光コンテンツを創出し、「文化芸術創造都市・横浜」のプレゼンス向上を図ります。

<31年度実施概要>

期間：10月末から12月(約2か月間)

会場：新港地区ほか

### ◇映像文化都市次世代育成事業

市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像技術や専門性を活用して、体験型の映画撮影講座や、アニメーション・教育番組・その他様々な映像作品の制作に関する講座、子ども向けの映像のワークショップ等を開催することで、映像文化における次世代育成を推進します。



【クリスマス・アニメーション・ワークショップ（青葉区内）】

## (3) 創造界限形成事業

拡充

3億2,211万円（前年度：3億1,068万円） p. 18

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を有効活用した創造界限拠点として、YCC ヨコハマ創造都市センター（以下「YCC」という。）や、急な坂スタジオ、象の鼻テラス、THE BAYS の運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの集積や地域との連携を通して、地域の活性化を図ります。また、違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区は、引き続き、地域・警察・行政が一体となって、文化芸術の力を生かしたまちの再生を進めます。

31年度は、31年2月にオープンする予定の新たな分散型の創造界限拠点である BankART1929（文化芸術創造発信拠点）の本格運営を開始するとともに、YCC では、天井の耐震化に向けた工事の基本設計や計画修繕を実施し、安全・安心な施設保全に取り組みます。

近年増加している個人旅行者を誘客するため、ターゲットに応じた戦略的な取組を展開します。特に、ラグビーワールドカップ 2019™開催にあわせた集中的なプロモーションにより、観戦客の市内宿泊・観光につなげます。さらに、市内の和の観光資源の活用や、民間事業者と連携した回遊性向上の取組により、クルーズ旅客をはじめとする観光客の市内観光を促進します。また、三溪園の重要文化財等の大規模修繕や、横浜マリンタワーの改修工事を計画的に推進します。

### (1) ラグビーワールドカップ 2019™を契機とする海外誘客 プロモーション事業

2,900万円（前年度：1,900万円） p. 23

拡充

ラグビーワールドカップ 2019™では、ラグビー強豪国を中心に海外から多くの観戦客が横浜を訪れることが予想されます。試合前後の訪日観戦客の市内宿泊と観光消費を促進するため、インターネットメディア等を活用し、訪日前と滞在中の誘客プロモーションを実施します。

また、ラグビー観戦客は比較的長期間滞在し観光も楽しむ傾向があることから、他都市との連携により、横浜を起点とする広域周遊を促します。

さらに、この大会を好機として、観光地としての横浜の認知を高め、さらなる誘客につなげるため、旅行会社への継続的なセールスや海外メディア等を対象としたプレスツアーなどを実施します。



【英国現地でのメディアネットワークング】



【ブレディスローカップでの観光PRブース】

### (2) 海外誘客事業

1億2,137万円（前年度：7,552万円） p. 23

拡充

市内外国人宿泊者数の増を目的に、訪日リピーターが増加するアジア圏を対象に誘客事業を実施します。個人旅行化が進む市場では、口コミサイトやSNS等でのプロモーション、ビジネス利用を含む手配旅行のニーズに合わせた旅行会社へのセールスを継続するとともに、近隣都市連携による広域周遊ルートの形成等につなげます。

横浜港のクルーズ船入港数増加や新たなふ頭整備を踏まえ、クルーズ旅客の乗船前後の宿泊促進を図るほか、新たに市内事業者との連携により、クルーズ旅客の市内回遊促進プログラムを展開します。また、手配を行う旅行会社を対象に三溪園など和の資源を訴求する視察ツアーを実施します。

加えて、市内に来訪する外国人旅行者の実態調査を継続し、ニーズの把握や誘客施策に活用します。



【横浜に寄港した大型クルーズ客船】

### (3) 国内誘客事業

拡充

5,722万円(前年度:3,497万円) p.23

修学旅行など団体旅行を誘致するため、旅行会社などに対してセールスを実施するとともに、個人旅行者に対して来訪を訴求するため、SNSを活用して魅力ある観光資源を発信し、国内からの誘客を促進します。

31年度は横浜を舞台とする映画、ドラマ、ゲーム等のコンテンツとタイアップを図り、回遊性の向上に取り組めます。また、新たにコンサートなどのイベント等と連携し、イベント当日だけでなく、前後泊を促す取組を民間事業者と協働で実施し、横浜ならではのニューツーリズムを推進します。

さらに、近隣都市との連携や郊外部の観光資源の活用により、広域での周遊ルート等の観光情報を発信し、誘客を促進します。



【旅行会社と市内観光関連事業者との商談会】

### (4) 三溪園施設整備等支援事業

拡充

3億100万円(前年度:2億2,906万円) p.24

戦後復旧から60年経過した重要文化財等建造物の大規模修繕及び耐震化改修について、工期を三期に分け、緊急度の高い建造物から実施していきます。31年度は臨春閣の屋根の葺き替え等に着手します。

また、外国人入園者を含め多くの方に来園していただけるよう、プロモーションを一層強化するとともに、受入環境の向上のため、多言語対応の拡充をはじめ、新たに魅力あるお土産品や食の提供等に取り組めます。



【大規模修繕対象施設 臨春閣(重要文化財)】

### (5) 観光施設維持管理事業(マリンタワー改修)

拡充

6,000万円(前年度:5,000万円) p.24

横浜マリンタワーは、次期運営等事業者による運営開始までの間、改修工事(塔体塗装修繕、展望用昇降機制御装置更新、空調機器更新ほか)を行います。

なお、工事に伴い、31年4月から34年3月までの約3年間休館します。

<今後のスケジュール(予定)>

- 31年度 工事契約、着工
- 32年度 工事(～平成33年度末)
- 34年度 再開業



【横浜マリンタワー】

32年春開業予定の新たなMICE施設（通称：パシフィコ横浜ノース）の整備を契機に、経済波及効果の高い中大型の国際会議等に加え、インセンティブ旅行等のビジネスイベントの誘致を進めます。

併せて、アフターコンベンションの振興を目的としたユニークベニューの開発・活用促進のほか、MICEの円滑な誘致・開催支援に向けた地域連携の向上などの取組を通じて、誘致環境の整備を進め、グローバルMICE都市としての競争力を強化します。

### （1）MICE誘致・開催支援事業

拡充

2億6,165万円（前年度：2億965万円）

p. 24

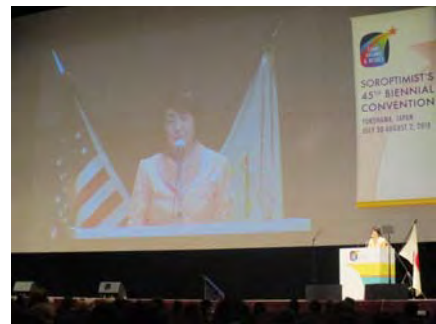
MICEの誘致・開催支援など各種施策を推進することで、MICE開催機能を強化し、横浜の特色を生かしたグローバルMICE都市としての競争力を強化します。

#### ◇MICE誘致・開催支援

経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議に加え、IoTやライフイノベーションなどの成長分野の会議や、インセンティブ旅行や展示会などの誘致及び開催支援を行います。

大型国際会議の横浜開催に向け、海外MICE商談会への出展など国内外のセールス活動や誘致助成金の交付などを行います。

また、新たにユニークベニュー開発・活用の促進や、MICEに係る地域連携ネットワークの構築を通じ、MICEの受入環境整備を推進します。



【第45回国際ソプロチミストアメリカ連盟隔年大会の様子】

#### ◇MICEを活用した次世代育成事業

国際会議や展示会の開催に合わせ、国内外で活躍する研究者等を講師に迎え、市内の児童・生徒を対象とした講演やワークショップなどの講座を開催します。研究者との交流や、普段体験できない特別な実習などを通じ、次世代を担う児童・生徒が最先端の技術や情報に接し、また、将来の進路について考えるきっかけを提供します。

#### ◇MICE・観光集客等イベント支援

MICE開催との連動や、横浜の歴史と魅力を活かした大規模集客イベントに対し、広報協力などの開催に向けた支援を実施します。

#### ◇みなとみらい公共駐車場事業移管準備 新規

32年度末に（公財）横浜市建築助成公社から本市へ移管される「みなとみらい公共駐車場」について、本市移管後の運営事業者選定手続を進めます。



## (2) 20 街区 M I C E 施設整備事業

拡充

22 億 5,190 万円（前年度：1,000 万円）

p. 24

M I C E の市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要を踏まえ、パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい 2 1 中央地区 20 街区）で、新たな M I C E 施設（P F I 事業）とホテル（民間収益事業）等を一体的に整備します。32 年春の施設開業に向けて、着実に工事を進めます。

### <施設概要>（予定）

階数	地下1階、地上6階
最高の高さ	36.2m
延床面積	約47,000㎡
多目的ホール	約6,400㎡※
会議室	約6,200㎡※

※運営事業者による貸し出し面積



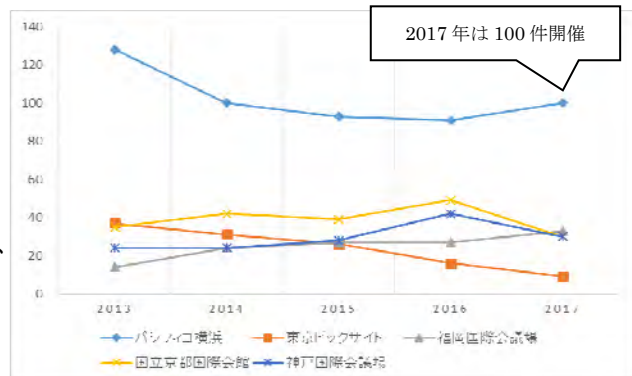
【新たな M I C E 施設（通称：パシフィコ横浜ノース）のイメージ図】

## ◆トピックス② 国際的な M I C E 拠点都市・横浜◆

日本有数の M I C E 施設であるパシフィコ横浜では、国際会議をはじめ数多くの M I C E が開催されています。今後も、2020 年春の新施設の開業を契機とし、さらなる賑わいを創出していきます。

### ●会場別国際会議参加者総数 16 期連続 全国 1 位

パシフィコ横浜は、J N T O（日本政府観光局）国際会議統計の会場別国際会議参加者総数は約 22 万人で 16 期連続全国 1 位、M I C E 施設別開催件数については 100 件で 15 期連続全国 1 位となりました。

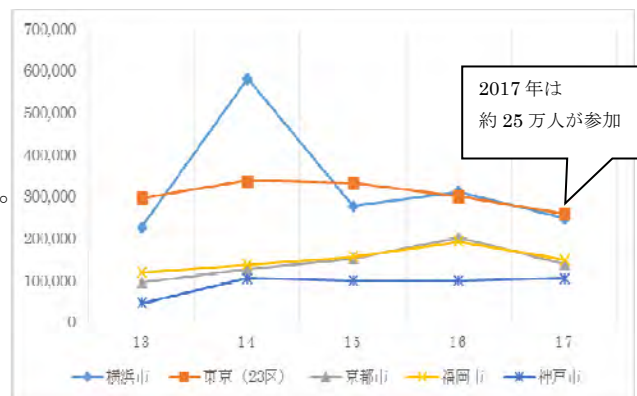


【M I C E 施設別国際会議開催件数】

### ●都市別国際会議参加者総数全国 2 位

都市別国際会議参加者総数は約 25 万人で全国 2 位となりました。

今後も、経済波及効果の高い中大型国際会議等の誘致を積極的に推進していきます。



【都市別国際会議参加者数】

出典：J N T O（日本政府観光局）国際会議統計

### ◆トピックス③ 「社会包摂」と「次世代育成」推進に向けた取組◆

文化観光局は共通理念として「社会包摂（クリエイティブ・インクルージョン）」と「次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）」の推進を掲げています。

横浜市の文化芸術の創造性を生かしたまちづくりを踏まえ、障害・人種・国籍・宗教・年齢・性別等の様々な違いを超えて創造的に課題解決を図るとともに、誰もが対等な関係で関わり合い、社会や組織に参画するという考え方（クリエイティブ・インクルージョン）をもって、事業を実施します。

また、子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むため、学校や地域において、文化芸術を通じた国際交流などに親しむ機会の充実や才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家の芽を育む取組を推進し、ライフステージに応じた次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）を幅広く展開します。

#### 「社会包摂（クリエイティブ・インクルージョン）」

##### ◆ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業 p.18

障害のある方をはじめとする市民の皆様と、アーティストなどの多様な分野のプロフェッショナルとの協働によるアートプロジェクト『ヨコハマ・パラトリエンナーレ』を開催し、誰もが居場所と役割を実感できる社会の実現を目指します。

31年度は、『ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020』の開催に向けて、パフォーマンス等の作品制作を開始するほか、多くの方に参加頂けるよう、トークイベントを開催するなど、PR活動を行います。また、健康福祉局と連携し※、障害のある方の創作活動を支える人材の育成にも引き続き取り組みます。 ※…健康福祉局で1,000万円を別途計上

##### ◆横浜音祭り2019における取組（横浜芸術アクション事業の一部） p.7

障害のある人達が、体を動かして「音楽」を楽しむ和太鼓のワークショップや、参加者が「視覚以外」の感覚を研ぎ澄ませて音楽を体験するコンサートなどを予定しています。

##### ◆バリアフリー能（文化施設運営事業の一部） p.5

横浜能楽堂では、障害の有無にかかわらず誰もが一緒に能や狂言を楽しめるよう、様々なサポートを用意した「バリアフリー能」を引き続き実施します。

##### ◆ユニバーサルツーリズムの推進（横浜おもてなし事業の一部） p.24

年齢や障害の有無等に関わらず、すべての方々がそれぞれの楽しみ方で横浜観光を楽しむよう、ユニバーサルツーリズムを推進します。

31年度は、29、30年度に策定した高齢者や障害者にも楽しんでいただける観光モデルコースの多言語化を進めるとともに、観光施設やホテル等のバリアフリー情報のデータベース化や、市内観光関連事業者を対象とした研修等を実施します。

## 「次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）」

### ◆芸術文化教育プログラム推進事業 p. 19

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽、演劇、ダンス、美術、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。

NPO法人や市内文化施設等が、教師とアーティストのコーディネートを担当することで効果的にプログラムを提供します。

### ◆クラシック・ヨコハマ推進事業 p. 19

国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供するとともに、市民の皆様身近な場所でクラシック音楽を楽しんでいただくことを目的とし、国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」を核に、コンサートを開催します。コンクールでは、市民の皆様を選定員になっていただき、聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。



【第72回全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜】（毎日新聞社提供）

### ◆ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン推進事業 p. 19

次世代を担う演奏家の育成を目的に、世界各国から選抜された若手演奏家に対して、創設者の大友直人氏、アラン・ギルバート氏ら、世界の第一線で活躍する指揮者や演奏者が講師となって、横浜みなとみらいホールで集中セミナーを実施します。成果を発表する場として、室内楽やオーケストラ等のコンサートを開催します。

### ◆MICE次世代育成事業（MICE誘致・開催支援事業の一部） p. 12

国際会議や展示会の開催に合わせ、国内外で活躍する研究者等を講師に迎え、市内の児童・生徒向けの講演やワークショップなどを開催します。研究者との交流や、普段体験できない特別な実習などを通し、次世代を担う児童・生徒が最先端の技術や情報に接し、将来の進路を考えるきっかけを提供します。



【ET・IoT Technology 2018で開催した次世代育成事業】

### ◆映像文化都市次世代育成事業（映像文化都市づくり推進事業の一部）【再掲】

p. 9 参照

### ◆子どもたちの豊かな創造性を育むための次世代育成事業（横浜芸術アクション事業の一部）

【再掲】 p. 8 参照

### Ⅲ 平成31年度 文化観光局予算案総括表

(単位：千円)

科 目	31年度 予算額	30年度 予算額	差 引 増△減	前年比 (%)	主 な 増 減 事 業
4款文化観光費	10,351,110	10,514,053	△ 162,943	△ 1.5	
1項文化観光費	10,351,110	10,514,053	△ 162,943	△ 1.5	
1目文化観光総務費	1,399,574	1,335,146	64,428	4.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シティプロモーション事業 35,424千円増</li> <li>・職員人件費 35,331千円増</li> <li>・パーソナルモビリティ実証実験事業 △ 2,500千円</li> </ul>
2目文化芸術創造都市推進費	4,879,099	7,603,768	△ 2,724,669	△ 35.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜美術館大規模改修事業 236,754千円増</li> <li>・文化施設運営事業 226,153千円増</li> <li>・芸術文化支援事業 201,200千円増</li> <li>・関内ホール改修事業 △ 2,600,266千円</li> <li>・文化施設整備事業 △ 605,300千円</li> </ul>
3目文化プログラム推進費	537,565	540,574	△ 3,009	△ 0.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜トリエンナーレ事業 64,000千円増</li> <li>・横浜芸術アクション事業 △ 63,120千円</li> <li>・日中韓都市間交流事業 △ 1,990千円</li> </ul>
4目観光MICE振興費	3,534,872	1,034,565	2,500,307	241.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20街区MICE施設整備事業 2,241,900千円増</li> <li>・観光・MICE情報発信事業 81,307千円増</li> <li>・三溪園施設整備等支援事業 71,941千円増</li> </ul>

## IV 予算科目別内訳

1 項 1 目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市 債	その他	一般財源
1 文 化 観 光 総 務 費	千円 1,399,574	千円 1,335,146	千円 64,428	千円 —	千円 —	千円 55	千円 1,399,519

### 横浜魅力づくり室

#### (1) シティプロモーション事業 121,248千円 (前年度 85,824千円)

横浜の魅力を表すスローガンとして、「あうたびに、あたらしい Find Your YOKOHAMA」を掲げ、重点的にプロモーションすべきイベント・施設を選定したうえで、ターゲットに適した広報媒体を選択しながら、年間を通じた効果的なプロモーションを展開します。31年度は、ラグビーワールドカップ2019™の機会を捉え、英国やオーストラリア等を中心に海外へのテレビやSNSでの訴求をより強化するとともに、空港やエアライン機内ビジョンにおいて、来日した外国人旅行者へのプロモーションを展開し、都市の魅力の認知向上につなげます。また、民間企業等と協力し、横浜のブランド力向上につながる魅力を共創し、プロモーションを進めていきます。

#### (2) 調査分析事業 10,264千円 (前年度 12,076千円)

市内で実施されるイベントや、横浜を代表する文化・観光施設に関する認知度、訪問意欲等の把握や、横浜の文化芸術の意識・活動に関する調査を実施し、施策立案の基礎資料として活用するとともに、プロモーションの戦略的・効果的な実施、賑わい形成や経済活性化につなげます。

#### (3) フィルムコミッション事業 11,264千円 (前年度 11,579千円)

横浜のシティセールス・プロモーション等に寄与する映像作品や観光客誘致に効果のある映像作品のロケ支援を行います。

#### (4) 開港記念式典開催事業 4,680千円 (前年度 4,680千円)

開港記念日（6月2日）に市民の皆様や市政関係者とともに開港を祝い、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表するため、開港記念式典を開催します。

#### (5) パーソナルモビリティツアー実証実験事業 2,500千円 (前年度 5,000千円)

横浜の新たな魅力・観光資源として、都心臨海部におけるパーソナルモビリティツアーの公道実証実験を行います。

### 総務部

#### (6) 総務費 14,348千円 (前年度 16,048千円)

文化観光局職員の人材育成事業などを実施します。

#### (7) 人件費 1,235,270千円 (前年度 1,199,939千円)

文化観光局職員の人件費を計上します。

1項2目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
2 文化芸術創造都市推進費	千円 4,879,099	千円 7,603,768	千円 Δ2,724,669	千円 93,404	千円 684,000	千円 5,793,269	千円 Δ1,691,574

### 文化芸術創造都市推進部

#### (1) 創造界限形成事業 322,110千円 (前年度 310,676千円)

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を有効活用した創造界限拠点として、YCC ヨコハマ創造都市センター（旧第一銀行横浜支店）や、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）の運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの集積や地域との連携を通して、地域の活性化を図ります。

また、違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区においては、引き続き、地元・警察・行政が一体となって、文化芸術の力を生かしたまちの再生を進めます。

さらに、30年度にオープンした、新高島駅地下1階を中心とした、新たな分散型の創造界限拠点であるBankART1929（文化芸術創造発信拠点）の本格運営を開始します。

#### (2) ヨコハマ・パラトリエンナーレ事業 20,000千円 (前年度 10,000千円)

障害のある方をはじめとする市民の皆様と、アーティストなどの多様な分野のプロフェッショナルとの協働によるアートプロジェクト「ヨコハマ・パラトリエンナーレ」の次回展（2020年予定）に向けた作品制作等を行います。

#### (3) アーツコミッション事業 45,060千円 (前年度 62,060千円)

アーティスト・クリエイターの集積促進と活動支援の取組として「ワンストップ相談窓口」を運営します。また、若手アーティストの育成や、共生社会の実現を目指した創造活動に対する支援を実施し、まちの活性化を図ります。

さらに、アーティスト・クリエイターなどの関係者が相乗効果を生み出すプラットフォームを運営することで、新たなビジネス機会や横浜らしい魅力あるクリエイティブな活動の創出を促進します。

#### (4) スマートイルミネーション事業 39,400千円 (前年度 44,600千円)

横浜都心臨海部を舞台に、LED照明や太陽光発電などの省エネルギー技術とアートの創造性を融合させ、新たな夜景の演出を試みるイベント「スマートイルミネーション横浜」を実施し、都市としての魅力アップを図ります。

#### (5) 創造的ビジネス・コーディネート事業 24,000千円 (前年度 30,000千円)

様々な産業とクリエイターの創造性をかけあわせた付加価値の高い商品開発・販路開拓等の支援や活動に対する助成により、新たなビジネス機会の創出を図ります。また、クリエイターの創造性を生かした商品（クリエイターグッズ）を販売する売場の設置・運営を継続します。

**(6) 映像文化都市づくり推進事業** **326,500千円** (前年度 528,634千円)

横浜らしさを感じるエリアや施設を活用し、最先端の映像技術を駆使した音楽と光の演出を行うことで横浜の魅力向上を図ります。

また、横浜市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を引き続き実施することで、映像文化における次世代育成等を推進します。

**(7) 創造都市市民連携事業** **6,666千円** (前年度 6,666千円)

約300名の市民ボランティアスタッフが運営に参加する「横濱JAZZ PROMENADE」や、日本大通りを中心に多地点で同時に開催するコンサート「ホッチポッチ・ミュージックフェスティバル」など、多くの市民の皆様が参加するイベントの開催を引き続き支援するとともに、まちの賑わいや来街者の回遊性を創出します。

**(8) 創造都市推進事業** **1,542千円** (前年度 5,548千円)

文化芸術創造都市施策推進のための事務経費等

**(9) 芸術文化教育プログラム推進事業** **34,940千円** (前年度 34,940千円)

次世代を担う子どもたちの感性や創造性を育むために、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽、演劇、ダンス、美術、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを31年度は、261回(30予算261回)実施します。

**(10) 地域文化サポート事業** **30,000千円** (前年度 30,000千円)

地域課題の解決にアプローチする文化芸術活動をサポートするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける取組や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援します。

また、採択団体等のサポートのため、まちづくりなどの分野と文化芸術の関わりについて意見交換を行う研修や、事業紹介のための広報誌(季刊「ヨコハマアートサイト」)の発行、団体相互のネットワークづくりのための交流会などを実施します。

**(11) クラシック・ヨコハマ推進事業** **10,000千円** (前年度 10,000千円)

国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会」の開催に合わせ、コンクール出場経験者をはじめ、国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供すること及び市民の皆様身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、市内の様々な会場でクラシック音楽のコンサートを実施します。

また、コンクールでは、市民の皆様を選定員になっていただき、聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。

**(12) ミュージック・マスターズ・コース・** **20,000千円** (前年度 20,000千円)

**ジャパン推進事業**

次世代を担う演奏家の育成を目的に、世界各国から選抜された若手演奏家に対して、世界の第一線で活躍する指揮者や演奏者が講師となって、横浜みなとみらいホールで集中セミナーを実施します。成果を発表する場として、室内楽やオーケストラ等のコンサートを開催します。

**(13) 芸術文化支援事業** **231,600千円** (前年度 30,400千円)

世界から注目が集まる2019～2020年を好機ととらえ、両大会への市内の機運の醸成に繋がる文化芸術活動を活性化します。横浜美術館とその周辺の公共空間で文化芸術創造都市・横浜を象徴する文化芸術企画（シンボルプログラム）を実施する一方、2020年以降の市民社会を見据えた“先進的かつ実験的”な取組を、都心部や副都心部にある文化施設等と連携して行います（リーディングプログラム）。横浜美術館では年間を通じて、週末に開館時間を延長します。

さらに、市民の皆様が様々な文化芸術を鑑賞、体験、発表できる機会の充実を目指し、市に拠点のある文化芸術団体が行う、横浜の文化振興の基盤を担う活動を支援します。

**(14) フランス映画祭支援事業** **30,000千円** (前年度 30,000千円)

街の賑わいづくり及び横浜市とフランスの友好関係を強固なものとするを目的に、「横浜フランス月間」と連携しながら、フランス映画祭の開催を支援します。最新作上映のほか、市民交流・次世代育成事業を実施します。

**(15) 文化施設運営事業** **3,140,842千円** (前年度 2,914,689千円)

横浜美術館、横浜みなとみらいホール等の文化施設の運営及び各施設の設備等の修繕等を行うほか、31年度は天井の耐震化に向けて、鶴見区民文化センター及び栄区民文化センターの工事を実施するとともに、緑区民文化センターの基本設計を実施します。

○ 横浜美術館運営費	767,626千円
○ 横浜みなとみらいホール運営費	493,087千円
○ 横浜能楽堂運営費	177,736千円
○ 横浜にぎわい座運営費	211,821千円
○ 関内ホール等文化施設運営費	1,010,365千円
○ 区民文化センター天井脱落対策費	253,507千円
○ 文化施設修繕費等	226,700千円

**(16) 横浜美術館大規模改修事業** **306,754千円** (前年度 70,000千円)

しゅん工から30年となり、老朽化した設備機器の更新等による長寿命化を図るとともに、魅力ある美術館として運営していくために、バリアフリー対応や、ひっ迫した課題である収蔵庫の拡張等を行います。31年度は、大規模改修工事の実施設計及び収蔵作品等の移転に向けた事前調査・補修作業等を行います。

**(17) 横浜みなとみらいホール大規模改修事業** **98,568千円** (前年度 50,000千円)

利用者の安全を確保するため、「横浜市公共建築物天井脱落対策事業計画」に基づき、34年度までに大ホールや小ホール、ホワイエの天井の耐震化に向けた工事を実施します。併せて、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図るとともに、バリアフリー対応の改修を行います。31年度は改修工事に向けて、実施設計を行います。



**(18) 文化施設整備事業** **151,900千円** (前年度 757,200千円)

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、個性豊かな文化芸術活動を活発に行うことができる環境整備のため、身近な拠点となる区民文化センターを、各区の地域特性等に応じて整備します。31年度は、瀬谷区で保留床購入費の一部支払い、港北区では保留床取得に向けた不動産鑑定評価を行うとともに、都筑区では設計協議等を進めます。

○ 区民文化センター整備

瀬谷区	(保留床購入費)	148,000千円
港北区	(不動産鑑定費)	1,500千円
都筑区	(設計アドバイザー)	2,400千円

**(19) その他の文化振興事業** **39,217千円** (前年度 57,089千円)

横浜文化賞の贈呈、美術資料収集等のほか、文化施設が設置されている複合施設の修繕費を負担します。

**【終了事業】**

(創造都市国際交流事業)	(前年度 1,000千円)
(関内ホール改修事業)	(前年度 2,600,266千円)

1項3目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
3 文化プログラム推進費	千円 537,565	千円 540,574	千円 △3,009	千円 160,000	千円 —	千円 10,000	千円 367,565

### 文化プログラム推進部

#### (1) 横浜芸術アクション事業 391,200千円 (前年度 454,320千円)

都市のプレゼンスを高めていくことを目的に、文化芸術創造都市・横浜ならではの文化プログラムを国内外に発信するため、横浜らしい特色のある芸術フェスティバル「横浜音祭り2019」を開催します。

また、継続事業として、次世代育成事業・市民参加事業を実施します。

##### ア 横浜音祭り2019

###### (ア) 市民参加及び横浜の街を舞台とした事業

- ・街に広がる音プロジェクト（市内各所で公募アーティストが出演するステージを展開）

###### (イ) トップアーティスト事業

- ・オープニングコンサート / クロージングコンサート
- ・海外からオーケストラ等を招へい

###### (ウ) 子ども達の豊かな創造性を育むための次世代育成事業

- ・横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞者による18区コンサート（各区の文化施設等で開催）
- ・プロのアーティスト等によるワークショップ（小中高生を対象に実施）

##### イ ダンス部門

「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018」で高まった機運を継続させるため、市民参加・次世代育成を主要な柱としたダンス事業を実施します。また、次期ダンスフェスティバルの開催に向け、準備を進めます。

#### (2) 横浜トリエンナーレ事業 130,000千円 (前年度 66,000千円)

第7回展となる我が国を代表する現代アートの国際展「ヨコハマトリエンナーレ2020」（会期：2020年7月上旬から10月中旬）の開催に向けて、出展作家や作品、展示会場の調整等のほか、市民・地域の皆様との協働や横浜の持つ魅力を国内外へ発信するための準備を着実に進めます。

#### (3) 日中韓都市間文化交流事業 11,273千円 (前年度 13,263千円)

「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づく中国泉州市及び韓国光州広域市とのアーティストや芸術団体の派遣・招へい等、引き続き文化芸術を通じた交流を行っていきます。

#### (4) 文化プログラム推進事業 5,092千円 (前年度 6,991千円)

横浜ならではの文化プログラムを推進するための事務経費等

4	1項4目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
					国・県	市債	その他	一般財源
	観光MICE振興費	千円 3,534,872	千円 1,034,565	千円 2,500,307	千円 —	千円 —	千円 701,856	千円 2,833,016

### 観光MICE振興部

#### 1 国内外からの誘客促進

345,328千円

(前年度 190,418千円)

近年増加している個人旅行者を市内に誘客するため、ターゲットに応じた戦略的な取組を展開します。特に、ラグビーワールドカップ2019™の開催にあわせて、集中的なプロモーションを実施することで観戦客の市内宿泊・観光につなげます。あわせて、市内の和の観光資源（三溪園など）の活用や民間事業者と連携した回遊性向上の取組により、クルーズ旅客をはじめとする観光客の市内滞在・観光を促進します。

さらに、多様な文化圏からの来訪者に対応した受入環境整備と誘客プロモーションを一体的に実施します。

また、横浜観光情報ウェブサイトを一層充実させ、来訪意欲の喚起と滞在中の回遊性向上を図ります。

##### (1) ラグビーワールドカップ2019™を契機とする 海外誘客プロモーション事業

29,000千円

(前年度 19,000千円)

- 旅行関連口コミサイト等を活用した観光情報の発信
- 旅行会社・メディアを対象とするセールス及びプレスツアーの実施

##### (2) 海外誘客事業

121,367千円

(前年度 75,515千円)

- 現地セールス及び個人旅行者向けプロモーション
- クルーズ旅客の市内滞在・観光促進
- 外国人旅行者実態調査

##### (3) 国内誘客事業

57,224千円

(前年度 34,973千円)

- 国内向けセールス・プロモーション
- 市内のイベントと連携した宿泊の促進
- 都市間連携による誘客の促進

##### (4) 多文化に対応した受入・誘客事業

4,500千円

(前年度 9,000千円)

- 東南アジア諸国からの誘客プロモーション
- 多様な生活様式を持つ来訪者の受入環境整備

##### (5) 観光・MICE情報発信事業

133,237千円

(前年度 51,930千円)

- ウェブサイトやSNSを活用した観光・MICEの最新情報の発信
- 常時SSL対応のためのウェブサイトシステム改修
- 観光MICEマーケティング事業

## 2 観光客の受入環境整備の推進 606,091千円 (前年度 408,762千円)

ラグビーワールドカップ2019™開催にあわせて、観光案内所運営をはじめとする観光客受入環境の向上を図るほか観戦客の回遊性向上に取り組みます。また、観光課題を民間事業者と協働で解決を図る提案制度を創設します。さらに、三溪園の重要文化財等の大規模修繕等を計画的に推進し、貴重な和の観光資源として国内外からの誘客に活用していきます。

### (1) 横浜おもてなし事業 126,250千円 (前年度 63,260千円)

- 観光案内所の運営等による受入環境の向上
- ラグビーワールドカップ2019™観戦客の回遊性向上
- 観光MICEにおける課題解決のための民間事業者との協働事業

### (2) 三溪園施設整備等支援事業 301,000千円 (前年度 229,059千円)

- 名勝庭園の維持、重要文化財等の歴史的建造物整備・保全の支援
- 多言語対応拡充などによるインバウンド対応強化

### (3) ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援事業 2,763千円 (前年度 2,763千円)

- 認定商品の商談会等の開催や販路拡大の支援

### (4) 観光施設維持管理事業(マリインタワー改修) 60,000千円 (前年度 50,000千円)

- 横浜マリインタワー改修工事(工事:31年度~33年度)

### (5) 観光施設維持管理事業等 116,078千円 (前年度 63,680千円)

- 所管観光施設の管理運営支援
- 観光動向に関する調査

## 3 MICE誘致・開催支援 331,553千円 (前年度 418,885千円)

中大型国際会議を軸としたMICE全般の誘致・開催支援や、集客イベントへの開催支援に継続して取り組みます。

### (1) MICE誘致・開催支援事業 261,648千円 (前年度 209,648千円)

- MICE誘致・開催支援
- MICE次世代育成事業
- MICE・観光集客等イベント支援
- みなとみらい公共駐車場事業移管準備 等

### (2) 大型国際会議等誘致・支援事業 3,955千円 (前年度 4,300千円)

日本APEC、2度のアフリカ開発会議、第50回アジア開発銀行年次総会などの大型国際会議の横浜開催の実績などを生かし、引き続き、大型国際会議等の誘致及び開催支援に取り組みます。

### (3) 減債基金積立金 65,950千円 (前年度 204,937千円)

㈱横浜国際平和会議場貸付金について繰上償還を行い、利子を減債基金に積み立てます。なお、現在の市況に合わせた金利体系へ見直します。

## 4 20街区MICE施設整備事業 2,251,900千円 (前年度 10,000千円)

MICEの市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地(みなとみらい21中央地区20街区)で、PFI事業により新たなMICE施設の整備を行います。31年度末の施設竣工に向けて建築工事等を進めます。

### 【終了事業】

(多言語対応強化事業)

(前年度 6,500千円)

## ・株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を変更。

（31年度変更後額：6,795,000千円（30年度設定額：7,585,000千円））

（変更後の期間：31年4月～40年3月まで）

### 1 団体の概要

#### <事業目的>

国際・国内会議及び学術会議等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催する。

#### <設 立>

昭和62年6月3日

#### <基 本 金>

7,565,000千円（うち、横浜市出資額：4,100,000千円 出資割合：24.4%）

### 2 団体の経営状況：平成29年度決算

・営業収益 8,535,644千円 ・営業費用 7,508,758千円

・営業利益 1,026,885千円 ・当期純利益 296,867千円（16期連続黒字決算）

### 3 損失補償を行う特別な理由・必要性

大規模改修工事着手に際し、パシフィコ横浜のあり方検討を行った結果、改修工事はパシフィコが金融機関から借入を行って実施し、市は必要な支援を行うことを意思決定している。

### 4 対象債務の返済の見通しとその確実性

16期連続で黒字決算を達成している。今後も、売上の増加を図り、40年3月までに、対象債務を返済する見通しである。



YOKOHAMA  
**OTOMATSURI**  
横浜音祭り